



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会
 E-mail: nichiro@nichiro.org
 Home Page: <http://www.nichiro.org>
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14
 麻布台マンション401号
 Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



ミルラン・アルスタンバエフキルギス大使講演会

野口 久美子

7月16日、13時半より田町のリーブラ学習室Cにて「キルギス・セミナー」を開催いたしました。今年では日本・キルギス外交関係樹立30周年の記念の年です。ミルラン・アルスタンバエフキルギス共和国特命全権大使が、キルギス共和国のこれまでの歩みと日本との協力等についてプレゼンテーションをして下さいました。雨の降る中、会員16名、非会員6名、招待者2名、関係者4名の合計28名に御参加頂きました。

そもそも、今年4月に在京キルギス大使館を訪問する機会があり、キルギスと日本の交流を御提案致しました。大使館側はぜひやりましょと御快諾下さり、この三か月のうちに千葉副会長主導のキルギス料理講習会の成功、そして服部会長発案の大使による講演会が実現致しました。

在京キルギス大使館からは、ミルラン・アルスタンバエフ大使、アタッシュェのアブドゥラ・ウル・アブディスハン氏、アブディスハン氏の奥様で料理交流会の講師をして頂いたアイジャマル・クレンケエヴァさんの3名がお越しになり、会場内には自然や民族衣装等を撮影したキルギスの写真パネル、特産品を飾り、大変エキゾチックなキルギス・ブースといった風情になりました。

大使のプレゼンテーションによりますと、キルギス共和国は1991年8月に独立を果たし、この31年間で大統領が5回交代し、他の中央アジア各国よりも民主的路線を維持しています。農業、工業、IT、観光に加え山岳地帯の利を生かした水力発電も大きな産業のひとつ。我が国とは1992年1月に外交関係を樹立、2003年に日本大使館が開設され、2004年に在京キルギス大使館が開設されました。特産品のはちみつの特対日輸出量は、2021年は43トンでしたが、今年は100トンを超える見通しです。

今回は、「参加者が来て良かった、楽しかったと思って欲しい」というキルギス大使館側の御意向で、大使のお話のあと、日本語の大変堪能なアブディスハン氏がキルギスにまつわるクイズ大会も行うことになりました。大使の話に出て来た内容を復習するという形式なので、難しくはありません。正解者に



大使を囲んで

は、キルギス大使館より提供頂いたキルギス産はちみつや特産品の景品が出て、多くの参加者に好評でした。

また、「参加者と直接交流したい」という大使のお考えもあり、参加者との名刺交換・御挨拶タイムを設けました。大使との個別の写真撮影も盛り上がり、参加者には撮影を待つ間、試食ブースでキルギス産はちみつを試食して頂きまし

た。最後は山岸常任理事の御用意下さった大変上品な美しい花束を千葉副会長が大使にお渡しし、閉会となりました。お足元の悪い中、当日ご参加下さった皆様、運営側の皆様、誠に有難う御座いました。(常任理事)

講演では、スライドを見ながらキルギスの基本情報について説明を聞くことができました。人口、言語、面積、自然、気候、歴史の概要、歴代の大統領、生活、産業等、幅広い内容で、キルギスの全体像を知ることができました。中でも私が気になったのは、放牧のため、今でも夏には住居を移動する生活様式が残っているということと、教育が広く行き渡っているということが、同時に実現しているということです。講演会後、アブディスハンさんにこの二つの両立を、どうやって実現しているのか質問しました。すると、夏の移動生活の時には、学校も一緒に移動するというのです。学校だけでなく、病院等、生活に必要な施設一色、全て一緒に移動するそうです。定住生活の日本人には思い付かない驚きの発想です。本当にびっくりし、そして納得しました。

講演を聞き、キルギスは小さい国ですが、活力があり、多くの可能性を持った国だと感じました。発展だけでなく、伝統や自然を守ることも大切に考えられていることも魅力です。素敵な、アブディスハンさん、アイジャマルさんご家族の国キルギスに、いつかきっと行ってみたいです。基本情報には無いような、日常生活についても詳しく聞いてみたいです。ロシア語で話せるようになりたいと、心から思いました。(角田涼子)